

科目名	担当教員名	学期
ファイナンスⅡ Finance II	大野 薫	前期 後期
目的	ファイナンス評価の根底にある効率的市場の概念から始め、企業の最適資本構成 (MM理論)、オプション理論、短期財務計画の策定等、コーポレートファイナンスのさまざまな側面について学習する。	
概要	1. 効率的資本市場 2. 資本構成 3. 負債を持つ企業のキャピタル・バジェットティング 4. オプション理論 5. 短期財務計画	
到達目標	1. MM 理論、オプション理論を理解する。 2. コーポレートファイナンスの様々な問題に対して、自ら問題を定義し、ファイナンス理論の応用と実証研究に基づいた合理的意思決定が行えるようになる。	
成績評価の 基準と方法	授業への貢献度 (10%)、ホームワーク (30%)、理解度チェック-I (30%)、理解度チェック-II (30%) で評価し、100点満点で素点を計算する。この素点が60点以上の学生を合格者とし、相対評価比率に合致するように、素点順にA、B、C、Dの評価を決定する。不合格者 (E評価) は、素点ベースで60点未満の者とする。なお、ホームワークはグループを基本とし、グループ間の平均点が5点以上開いた場合には、調整を加える。	
履修条件	「ファイナンスⅠ」を履修済み、もしくは十分に理解していること。	
<b>授業計画</b>		
第1週	インTRODクシヨN 現在価値計算の復習	
第2週	第14章 効率的資本市場と行動的挑戦 第15章 長期資金調達：INTRODUCTION	
第3週	宿題演習 第16章 資本構成：基本概念 第17章 資本構成：負債使用の限界	
第4週	宿題演習 第18章 レバレッジがある企業の評価とキャピタル・バジェットティング 第19章 配当と他の分配	
第5週	宿題演習 第20章 証券の公募発行 第21章 リース	
第6週	宿題演習 第22章 オプションとコーポレートファイナンス	
第7週	宿題演習 まとめと理解度チェック-I	

第 8 週	第 2 3 章 オプションとコーポレートファイナンス：発展と応用 第 2 4 章 新株予約権付社債と転換社債型新株予約権付社債
第 9 週	宿題演習 第 2 5 章 デリバティブとリスク・ヘッジ 第 2 6 章 短期財務と計画の策定 ケース・ディスカッション
第 10 週	宿題演習 第 2 7 章 現金管理 第 2 8 章 信用管理と在庫管理 ケース・ディスカッション
第 11 週	宿題演習 第 2 9 章 合併、買収、および会社分割 ケース・ディスカッション
第 12 週	宿題演習 第 3 0 章 財務的困難 ケース・ディスカッション
第 13 週	宿題演習 第 3 1 章 インターナショナル・コーポレートファイナンス ケース・ディスカッション
第 14 週	宿題演習 まとめと理解度チェック-II
第 15 週	ケース・スタディー
テキスト 参考書等	【テキスト】 『コーポレートファイナンスの原理(第9版)』 Ross S. A., Westerfield, R. W., & Jaffe, J. 著 大野薫訳 (金融財政事情研究会、2012年)
その他 特記事項	講義の前にテキストを読んで予習し、その後宿題問題を解きながら復習すること。予習に1時間、復習に2時間程度が必要になる。